

第25回N I E全国大会 プログラム

—ともに生きる 新聞でつながる—

◆全体会（ライブ配信）

※11月23日（月・祝）午後1時以降、オンデマンド配信も実施します

13:30～13:50 開会式

あいさつ：山口 寿一氏 日本新聞協会会長

長尾 篤志氏 文部科学省初等中等教育局主任視学官

（萩生田光一大臣のあいさつ文を代読）

藤田 裕司氏 東京都教育委員会教育長

竹泉 稔氏 第25回N I E全国大会東京大会実行委員会委員長

東京都N I E推進協議会会長（国分寺市立第五小学校校長）

13:50～14:00 休憩（会場転換）

14:00～14:50 記念講演

演 題：社会の声をつむぐ小説 伝える新聞

講 師：真山 仁氏 小説家

14:50～15:00 休憩（会場転換）

15:00～16:20 日本N I E学会との共同シンポジウム

テーマ：ウィズコロナ時代にN I Eで培う力

～ともに生き、つながるための資質・能力

シンポジスト：真山 仁氏

大滝 一登氏 文部科学省初等中等教育局視学官

土屋 武志氏 日本N I E学会副会長、愛知教育大学教授

本杉 宏志氏 東京都立青山高等学校主幹教諭、N I Eアドバイザー

水木智香子氏 足立区立西新井小学校教諭

城島 徹氏 毎日新聞社教育事業室編集委員

司 会：関口 修司・日本新聞協会N I Eコーディネーター

16:20 終了

◆分科会（オンデマンド配信）

<11月22日>

16:20 配信開始予定 ※全体会の終了が遅れた場合、終了後に配信します

視聴期間：2021年2月28日（日）まで



多様な視点を育む教育の一助に

日本新聞協会会長
山口 寿一

第25回NIE全国大会東京大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。東京での開催は1996年の第1回大会以来、24年ぶりとなります。

85年の新聞大会で提唱されて以来、NIEは教育界とともに歩み続けてきました。今では学習指導要領に新聞活用が明記され、全国の学校で取り込まれるまでに発展しました。この間にご協力を賜りました先生方、教育関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

本大会のスローガンは「ともに生きる 新聞でつながる」です。変化し続ける時代、コロナ禍の中で、物事をさまざまな角度からとらえる多様な視点、思いやりの精神、社会の動きに幅広く興味を持つ姿勢が一層求められています。成年年齢の引き下げや高校の科目「公共」の新設を2022年度に控え、次代を担う社会の一員として児童・生徒の資質・能力を育む生きた学びが教育界に期待されています。新聞は、そのような学びを深めるために最適であると確信しています。

新型コロナウイルス感染症への対応で教育界が大変厳しい状況に置かれ、今大会は開催が危ぶまれました。史上初のオンライン大会とすることで開催にこぎつけることができましたのは、東京都NIE推進協議会をはじめ、多くの関係者の皆さまのご尽力のたまものにはかたじけなく感謝申し上げます。主催者を代表して深く感謝申し上げます。

おかげさまで、小・中・高校の実践発表を中心に多彩なプログラムがそろいました。この大会を通じ、新聞活用の意義を広く共有していただければ幸いです。



変化の時代に新聞で深い学びを

文部科学大臣
萩生田 光一

第25回NIE全国大会東京大会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

皆様におかれては、日頃から学校における新聞教育の充実・発展に御尽力いただき、深く敬意を表します。

近年、社会は大きく変化しており、今後、人工知能の飛躍的な進化等により、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされています。これからの教育においては、こうした将来の変化を予測することが困難な時代だからこそ、子供たちには変化を前向きに受け止め、社会や人生をより豊かなものにしていくことが期待されます。

文部科学省では、平成29年及び平成30年に小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領を改訂し、これからの時代に求められる資質・能力を明確にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習課程の改善を通して、資質・能力の着実な育成を目指しております。

この新学習指導要領において、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための言語活動の例として、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動を挙げており、学校教育において新聞を活用することは子供たちに必要な資質・能力を育成するために非常に重要なものと考えています。

このような中で、日本NIE学会との共同シンポジウム、実践発表等の取組が行われる本大会の意義は大変大きいものと考えます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、様々な対策を講じながら本大会を開催されたことに感謝申し上げますとともに、日本新聞協会のますますの御発展と、皆様方の御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



効果的な言語活動を生む新聞活用

東京都教育委員会教育長
藤田 裕司

第25回NIE全国大会が、「ともに生きる新聞でつながる」のスローガンの下、東京都にて開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。

近年、急速な社会のグローバル化や科学技術の著しい発展など、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しています。また、少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少などに伴い、雇用形態や社会・経済の在り方も、将来的な予測が困難な状況にあります。そのような社会の中にあっても、困難に立ち向かい、課題を解決し、自己実現を図っていける人間として生きていく力を子供たちが着実に身に付けられるようにすることが、私たち教育に携わる者の責務です。

新聞を活用した教育活動は、情報を処理したり活用したりすることを通じて、思考し、判断し、表現しながら課題を解決するといった効果的な言語活動を生み出します。そこに、子供たちの発達の段階や、各教科等の特性に応じた工夫が加えられることで、身に付けるべき資質・能力を子供たちが着実に習得できる学習活動を実現することができます。

コロナ禍の中、各学校ではさまざまな制約を受けながらも、教育活動の充実に向け不断の努力が続けられています。本研究大会での優れた実践の成果等が広く全国で共有され、学校教育全体へと広がり、子供たちの生きる力を育む教育活動へとつながっていくことを、心より祈念申し上げます。



オンラインで気軽に参加を

第25回NIE全国大会東京大会実行委員長
東京都NIE推進協議会会長
竹泉 稔

全国各地でNIEを実践し、子供たちをご指導いただいている多くの先生方、そして、実践する教員や学校をさまざまな形で支援していただいている新聞関係者の皆様、第25回NIE全国大会東京大会にご参加いただき、ありがとうございます。

本来ですと皆様に東京にお集まりいただき、同じ会場でNIEを通して研究や交流を深めていただくところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンラインによる開催となりました。開催そのものが危ぶまれる状況でしたが、今回の発表者や関係者の皆様のご尽力により開催にこぎ着けることができました。1996年の第1回NIE全国大会東京大会から続けてきた全国大会をときざせることなく、こうしてつなぐことができたことはこの上ない喜びです。第1回大会の参加者は256人でしたが、最近では2000人を超える大会も出てくるまでになっています。着実にNIEは教育現場で受け入れられ、広がりを見せています。今回のオンラインによる開催で、遠方からも気軽に参加できるようになったことで、NIEがさらに広がり、発展する機会になることを願っています。

最後になりましたが、主催の日本新聞協会、ご協力いただいている在京各新聞社・通信社、本大会開催のためにご尽力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。本大会がNIE全国大会の新たな一歩になることを祈念して、あいさつといたします。

【登壇者プロフィール】

敬称略

<記念講演・シンポジウム>

真山 仁 (まやま・じん)

小説家

新聞記者、フリーライターを経て、2004年『ハゲタカ』でデビュー。同シリーズのほか、『マグマ』『黙示』『そして、星の輝く夜がくる』『売国』『当確師』『オペレーション Z』『トリガー』など、幅広い社会問題を現代に問う小説を発表している。最新刊は初の医療小説『神域』。

<シンポジウム>

大滝 一登 (おおたき・かずのり)

文部科学省初等中等教育局視学官

1989年から岡山県公立高等学校教諭として勤務後、同県教育委員会指導主事、ノートルダム清心女子大学准教授を経て、2014年から国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官・学力調査官（国語）、17年から現職。

土屋 武志 (つちや・たけし)

日本NIE学会副会長、愛知教育大学教授

1982年から長崎県内の高等学校、中学校教諭・講師として勤務後、同県教育センター研修指導員、愛知教育大学助教授などを経て、2006年から現職。11年から愛知県NIE推進協議会会長、20年から日本NIE学会副会長。

本杉 宏志 (もとすぎ・ひろし)

東京都立青山高等学校主幹教諭、NIEアドバイザー

1986年から東京都立中学校教諭、88年から都立高等学校教諭として勤務し、2014年から主幹教諭。13年からNIEアドバイザー。

水木智香子 (みずき・ちかこ)

足立区立西新井小学校教諭

2013年から東京都公立小学校教諭として勤務。

城島 徹 (じょうじま・とおる)

毎日新聞社教育事業室編集委員

1981年毎日新聞社入社。社会部記者の後、ヨハネスブルク支局長としてアフリカ各地取材。その後長野支局長、生活報道センター長、大阪本社編集局次長などを経て、2011年から現職。2013年以降、新聞協会NIE専門部会長を3度務めた。著書に『新聞活用最前線』など。

関口 修司 (せきぐち・しゅうじ)

日本新聞協会NIEコーディネーター

1979年から東京都公立小学校教諭として勤務し、2004年から北区内3校で校長を歴任、14年度東京都教育委員会職員表彰（学校経営・NIE）。16年から現職。

◆分科会紹介

1. 学校全体で取り組む NIE～新聞をフル活用

国分寺市立第五小学校教職員

【学校全体】「自分の力で考え、豊かに表現する」児童の育成を目指し、朝の NIE タイム、日常の授業から委員会活動まで、教員一丸となり、学校組織として新聞の活用に取り組む。その過程では、教員の研修会を実施し、教員自身も新聞に親しみ NIE への理解を深めた。学校を挙げての NIE の取り組みと成果を報告する。

2. 持続可能な言語能力の育成～読み書き能力を伸ばす実践

江戸川区立南篠崎小学校・堀口友紀主幹教諭

【小学校第4学年・国語】子どもたちが将来を生き抜くためには、語彙を増やし、知識と関連付けて思考を整理し、表現する力が重要と考え、書く活動を学級経営の柱に据えて体系的に実践してきた。本物の新聞の見出しを参考にしたのはがき新聞や壁新聞など、豊富な事例を交えて報告する。

3. 課題発見解決能力の育成～新聞で社会とつながる

文京区立関口台町小学校・矢野篤彦教諭

【小学校第4学年・総合】児童が生きる実社会から自ら課題を発見し、探究する意欲につながりたいと考え、新聞記事を活用した。防災や SDGs をテーマとした学習の導入段階で新聞記事を取り入れることを通じて、児童の意識の変化を探った。

4. 新聞を活用して意見形成を図る実践

世田谷区立船橋希望中学校・渡邊是能教諭、末松紗歩教諭

【中学校第2学年・世田谷区独自の教科「日本語」】新型コロナウイルス感染症に関する記事を活用し、生活への影響や今後の自身のあり方を考えさせた。身近に感染者が出た場合を想定した演劇形式の授業を通して、情報の取り扱い方などメディアリテラシーの要素も織り込み、自分たちがどう行動すべきかを考える機会とした。

5. 新聞を通して社会を見つめる～投書で「特別の教科 道徳」

世田谷区立喜多見中学校・木村要介教諭

練馬区立石神井東中学校・向井哲朗主任教諭

豊島区立明豊中学校・佐久間伸昭教諭

【中学校第1学年・道徳】複数校で同じテーマの実践を行い、内容を深める試みの一環。新聞の投書欄を活用し、ICT や思考ツールも使い、社会的な課題について考え、他者の意見に接し、あるいは話し合うことで意見がどう変容したかを自己分析させるなどした喜多見中学校の実践を中心に報告する。

6. 言葉を見つめる～新聞の写真を題材に俳句を創作する

町田市立真光寺中学校・山田慎一主幹教諭

【中学校第3学年・国語】俳句の創作活動において、より幅広い題材を得るため、そして感動の焦点を絞る感覚を養うために新聞写真を活用した。季節や行事などを伝える1枚の写真から俳句を詠む実践に活発に取り組む生徒たち。その様子も交えて報告する。

7. 実社会と国語を結び付けるための授業～NIEの実践を通して

東京都立第三商業高等学校・高倉愛理沙教諭

【高等学校第2、3学年・現代文B】新学習指導要領を見据えて、メディアの使い分けと基礎的な新聞の読み方を身につける、地域社会を担う人材として考えを深め、伝える力を身につけるなど、4つのねらいを設定し、2年間継続して行った実践の成果と課題について報告する。

8. 新聞で世界とつながり、共に考えるNIE～多国籍生徒たちの挑戦

東京都立新宿高等学校・高橋伸明教諭

【高等学校第2学年・現代文B、日本語ほか】卒業後に世界で活躍が期待される生徒たち。新聞を通して世界の動向や社会の課題について知識を深めることから始める。年間を通じて教科教育、日本語教育、SDGs、キャリア教育などの教育活動と新聞を結び付けた実践を行った。

9. 18歳成人とNIE～大人になることについて考えよう

東京都立荻窪高等学校・代田有紀主任教諭（NIEアドバイザー）

【高等学校第3学年・倫理（選択科目）】2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられる。「高校生は大人か？」という大きな問いの解決に挑む。「こども」と「大人」の間の青年期を生きる高校生に、新聞を通して「大人とは何か」を考えさせた。

10. 行政を挙げたNIE活動の紹介

独自教科「日本語」でNIE実践 世田谷区教育委員会

「新聞大好きプロジェクト」を展開 北区教育委員会

行政を挙げてNIEを推進する東京都世田谷区、北区の取り組みを紹介する。世田谷区は独自の教科「日本語」での新聞活用や、区立中学校3年生全クラスを対象にした新聞配布事業などを報告する。北区では、「北区教育ビジョン」に基づき「新聞大好きプロジェクト」を推進、「比べて読もう新聞コンクール」の実施や新聞販売組合や新聞社との連携などの施策について説明する。

<NIE はじめの一步>

いつでも、誰でも、簡単に始めることができるNIE。NIEは学校だけでなく、家庭でも気軽に取り組める。その魅力や意義を、新聞協会の関口修司NIEコーディネーターが理論編・実践編の二つの動画で解説する。

以上